

昭和17年10月1日（木）

毎朝数日に涉り降雨。掃除出来ず。戦車（戦車数台轟々の爆音を響かせ往復す）。坊やを抱き幸に表に出て居りし際、帰還したる為、之を觀せることを得たり。坊や頗る驚愕の目を囁（しよく）す。曇天。報告物の為、多忙を極む。切手類の請求受領、余行かず。

昭和17年10月2日（金）

快晴。久し振りの天氣に、干し物も乾上がる。豆債券三十枚請求したるが、此日竹折主事病氣不在。田所氏より配付を受く。債券は昨夜到着したらし。郵送を受けしは3時頃なりけん。此の間、豊田町松尾氏は数回来たり催促さる。此の分に対し配達さる12枚。南部小学校運動会と聞き、坊を負ひ行かれしも、運動会は明日なる由。公園のお猿さん等を見て帰らる。

昭和17年10月3日（土）

快晴。四五日前林檎を手に入れ、坊やの為に磨りて水分のみ与ふこととしあり。久子、ミワさん運動会見に行かれた留守に、蝗（肢羽を去り煮付け）を持来る。余、葉書一万受取りに中津局に行く序でに、公園地の南部の運動会に、ミワさんを見つけ至る。恰度正午、人出多く露店も数軒あり。物色したるも不明の儘、葉書は両肩に懸け垂れ四千づつ、更に二千を手につけ帰局すれば、ミワさん帰り居る。蝗（いなご）は母堂は食べられず。森田さんにも遣ったらしく、目を瞑して食べたが、お旨しかったと謂はる。油でいためてある為、一層お旨しく思ひぬ。

昭和17年10月4日（日）

曇天。午後、一時陽光を見たるも束の間。されども雨は降らざりし。報告物にて終日費やしたり。割合に暖かし。珍しく山の芋が手に入れられ、トロロさる。例に依り、磨り鉢にて磨ることは、余之を務む。

昭和17年10月5日（月）

朝の間陽射しあり。好天氣を予想されたる為、張板を下ろす。母堂専ら従事さる。午後は曇天。4時頃より降雨本格となる。土曜日、郵便窓口10円不足。前日金曜日の事故と分かり取調べたるに、切手20銭二十、30銭二十請求の儘、受取り居らぬらしく、在庫も其れだけ過剰となり居ることも分かり、一時5円補填の目的にて森田さんに交付したるも、返戻を受け切手にて交付せり。これは土曜日より日曜にかけての問題なりし。其の為、伊勢さん日曜に出局。再調する手筈にて出局したるも、判明の旨を聞き販宅。

昭和17年10月6日（火）

降雨黎明に及び、街路掃除せず。次第に雨は歇み、午後より碧空を見る。風強く事務室の扉を開放し能わず。夜に入り漸く冷ゆ。夕方坊や風呂行き。税務署への報告は、ミワさんに配付方依頼す。是に依り全報告物終了す。夕食素麺頂く。事務簡素化に関連し、為替取扱時一時間延伸さるるらし。ミワさん金光本部参詣の企てに参加す。

昭和17年10月7日（水）

晴れ。張り板利用。母堂仕事に精を出さる。切手請求払込金はミワさん持行かれ、現品受取は余行く。今日葉書

なし。5銭切手一万、10円印紙も相当数求む。鉄砲鑑札18円に必要あればなり。前田さん窓口欠損5円。水曜取扱時間午後5時まで。竹折さんに頼まれ、ゼリー菓子3円分購入。余切手現品受取に行く際、持行く。パンも手に入れらる。15銭40銭切手共、到着の由。今日尋ねさせ判明す。明日請求手配す。昨日より気温降下。甚だ寒し。室外は暖かし。

昭和17年10月8日（木）

快晴。為替欠損金の内、半額2,50前田員に交付せしむ。10時頃よりミワさん本部行き仕度にかかる。海苔巻き握り、肴煮付け、照り焼き。頃日、業者へ黒砂糖配給になりしらしく、饅頭が市場に顕はる。夫れを持行かる。3時頃既に夕食を済まし、出発準備に着手。4時前出発。余は4時、海苔巻きお握りを頂く。馬鈴薯の天麩羅をも頂く。坊やの守りに駅に一度連れ行く。森田さん岩尾さん等も遊ばせて下さる。8時寝かす。林檎磨りやる。一ケは腐敗し初めたり。切手午後1時持来る。40銭は6銭切手の刷色を更めたのみ。15銭のは飛行士の敬礼して居る姿を画きたるもの。

昭和17年10月9日（金）

昨日より急に暖かになりたるが、遂に夜来降雨。歇まず殆ど終日降り続く。7時頃まで坊や睡り居る。局員の誰彼、坊やを克く世話して下さる。夫れでも坊やの為、仕事が出来ず。屢々（しばしば）犠牲にして坊やを守りす。斯かる状勢下に在りては、坊やが睡って居る間に大急ぎに仕事に着手するに過ぎず。8時坊やを寝せて10時半まで執務。坊やのお腫の療治をやったり、繃帯を巻いてやっ

たりして11時寢床。午後3時林檎をすりてやる。磨り居る間も手を差入れて食ふ。

昭和17年10月10日（土）

午前3時頃風強く、雨雲を吹き払えし如し。昨朝は4時過ぎ起床せしも、此朝は3時起床。坊や克く寝て居る。街路の掃除を了し屋内に移る。座敷の掃除をする際、坊を起こす。パン食べかけて残す。仕事をして居る余の許に来たりて泣く。仕事が手に附かず。朝10時草履を穿かして、宮島町を経て合馬さん店頭に至り、負われたさに泣く。可なり疲れたか、販りて間もなく寝むり午後2時に延ぶ。5時頃も草履を穿かせて出掛け、駅に暫く遊ばす。5時半頃帰る。夜二度目、駅に坊を遊ばす。販る途、森田さんと会す。坊やを渡して8時頃販る。其の後一時間余、坊やを負うて森田さん販らる。

昭和17年10月11日（日）

快晴。夜来寒く綿入れを着用す。此の朝、7時の汽車にて見えず。朝飯8時に食べ了え、9時の汽車にて販り、其の儘神様に行き、一時間ばかりして販宅。森田さん30分間程遊ばせて外出。此の間に事務室内の掃除をやる。百億記念の万年筆参本。一本は余、他は為替係へ配付する様指定あり。

昭和17年10月12日（月）

此の朝万年筆を為替係に、自由に選択、各一本遣る。昨夜腹具合悪く下痢、着物を汚す。今朝洗濯、乾かす。天候思わしからず、降雨の兆しあり。切手請求払込み、及び現物請取り共、余行く。雨ポツポツ降るも遂に本降り

にならぬうちに歇み、夕方よりは碧空さへ見ゆ。鉄道60年記念切手300枚は駅に持行き、駅200保線区100遣る。14日売出し。福岡へ14日行くに付き、葉書を通知す。久子、蝗持来たり菓子遣る。悦子連れ来る。貯金切手売りにミワさん外出。菓子等を合間に求め来らる。米二升遣り麴を求むることとせらる。裏の醤油屋、田渋広吉氏長男、弁二氏44にて突然死去。諸町本家にて葬式の由。

昭和17年10月13日（火）

朝来晴れ。午後より漸次曇り、遂に雨となり、乾し物慌てて撤去す。坊や理髪、丸坊主となる。余腹調子悪し。朝、薯粥さし頂く。最初絶食の積もりなりしが、強ゆるると遂食べるので恢復を遅らす。夕食、椎茸飯少し許り頂く。雨は少時して歇む。天候恢復の兆しあり。ミワさん木の箱20銭にて求め来らる。米5升入るれば容積及び重量をとりて、他の品物を容るる余地少し。乃ちうどん10把入れ、9時頃駅に持行く。饅頭、メリケン粉、坊やの菓子少し等は、別に風呂敷包みとして荷造りす。11時坊やを着物を改めしめ寢床。坊や牛乳を余り飲まぬ勢か、小便遠くなる。葡萄を絞り呉れたるも之れも飲まず。風呂に行かる。福岡まで汽車賃1,80が2,55に値上げされ、貧乏者の旅行に手心を要することとなる。

昭和17年10月14日（水）

26日（月）まで福岡行きとて、十三日間記載なし。

昭和17年10月27日（火）

快晴。4時起床。坊や5時45分起き、両便させ其の儘眠らず。6時道子等も起き、パン蒸し準備。8時30分出発

の処、45分蓑島発にて行くこととせり。石原氏夫妻来たり色々注意し下さる。パン蒸し間に合わず。澄子あせり出し失敗多し。小言も責任のなすり合いにて聞き苦し。土産にパン沢山、途中坊やの分も別にしあり。道子と一緒に汽車に乗込みたるも、車掌より切符を求むること能わず博多駅に至る。道子をして切符を求めしめ、9時16分に乗込む。道子余を捜し、余道子を尋ぬ。漸くにして求め得たり。誤って二等車に乗る。道子に注意されて乗換ふ。途中小倉まで二度便所に坊やを連る。戦傷病軍人の側に割込む。小倉よりは東公園千代国民学校、六年級女生が乗込み、動くこと能わず。修学旅行は耶馬溪、宇佐、別府、明日夕方返校の予定らし。小倉より坊や小用に立たず。ミワさん迎えに来たり居る。此の間生徒より菓子貰ふ。パンを別に与ふ。坊や忘れず局員の誰とも抱かる。余の在否を顧慮せず。頗る得意の風あり。夜、数回小用に起こす。入浴に連れ行かる。

昭和17年10月28日（水）

快晴。8時前梅林氏、兄哥（けいか）の蒲団を「おかして呉れ」と云ふを、蒲団を「かしてくれ」と聞き、直に返事が出来ざりし。漸く真意が分かり、莫産包みを置いて去る。仏前に燈明を供せんとする時、富造氏来たり久闊を叙して色々話す。9時16分発車と云ふにぞ、9時近くまで話し、荷物を余が持ち駅に至る。上りは8時53分発にして、9時16分は下り列車の時刻なり。氏が誤りて下りを上りと認めたるもの。到着間もなく上りは発車、下りにて行くも殆ど熊本着は同時刻なる為、更に交渉したるも、余裕なき由にて次の上りを待つこととし、爰に一時間余待合わせて待つ間、人生問題を話す。同氏妻女産後死去。

母堂、熊本見物に到着し居らるる際なりし由。赤子は六ヶ月間大学病院にて養育し呉れ、其の後、貰ひ手ありて呉れて遣りたりと。其の後、今の家内を娶り女兒二人あり。兎角円滑に行かぬ悩みありとて、役所の問題と共に咄さる。10時開札後、余はホームに入らず別れて帰局。朝飯頂く。坊や局員に劬（つか）はられ駅まで行くこと数回。ミワさん便所に行き脱腸。坊を連れ湯に行かれ8時頃寢床。寢小便し敷き布団、其の他汚す。窓口岩尾さん欠損2, 50。

昭和17年10月29日（木）

快晴。巖、朝食中来たり、次いで余と座敷にて咄す。目鼻があれば誰でもよい様なこと云ふ。ミワさん請求切手類に対し、書類調製払込みに行かる。坊や便悪し。夕食を与ひずして公園地に連れ、一時間遊び飯る。湯に行き林檎汁、森田さんより頂きし蜜柑缶詰をやる。（缶詰切り、林より借用）坊喜んで食す。

昭和17年10月30日（金）

快晴続きの処、此日漸く天気崩れ初む。昨、汚れ物乾したるに全く乾かず。陽当たり次第に悪くなり、乾かぬも無理ならず。此日道路に面して乾かす。朝の間陽射しあり。大方燥く。甘藷昨夕より頂く。飯不喰。朝も夕も、、、夕食後公園地に坊を連れ行く。一時間余過ごし帰る。朝はミワさんに負われて行く。ミシン器械に関し色々聴く。ブラザーと云うのがシンガーの次ぎに位する優秀品なるも、知事の証明なしには遣れぬと云ふ。申請することとせり。伊勢さんに頼みてパンを買って貰ふ。同氏栄町局員に隣家の菓子屋あり。50銭分買って貰ふ。昨日も同氏を促し、

近所より一人2個宛てにて買って頂く。而して今日は売らずとミワさんに話せしも、栄町方面は元売捌き所相違の為、求め得られしものと認めらる。此朝掃除の際、釦と認めしは壱銭アルミなりし。

昭和17年10月31日（土）

快晴。午前中ミワさん公園に坊連れ行かれ、午後四時過ぎ夕食後、余連れ行く。南部小学校裏庭に遊び、公園に遊び陽入りて帰る。夕食うどん。朝甘藷残り頂く。久子来たり、パン4つ呉る。柿及び林檎菓子等遣る。今日対手の男と云う人物来たり。見合いすることになり居るらし。巖断れと云うたが、余の指金かと聞く。角野さん昨日午前4時頃、男子生まると。